

✎ 取組概要

- 防災担当、福祉担当、男女共同参画担当、社会教育担当の4部署が連携して、男女共同参画の視点からの防災に関する住民向け研修を実施

取組のきっかけ 『男女共同参画・福祉・防災の各取組を普及させたい！』

「男女共同参画」「福祉」「防災」の取組を進める上で、それぞれの担当が単独で取組を実施しても思うように進まなかった……

↓

防災担当と福祉担当の女性職員が、県主催の市町村職員と住民向け防災研修を受講。研修の中で、男女共同参画の視点からの防災の重要性について学んだ。



↓

防災担当、福祉担当、男女共同参画担当、社会教育担当の4部署の担当で研修での学びを共有し、4部署が連携して住民向けの研修を実施することに。

↓

複数の部署が連携する仕組みをつくり、それぞれの取組を普及させることを目指そう！

山形県
高島町 企画財政課

電話:0238-52-4476
<https://www.town.takahata.yamagata.jp/kurashi>

高島町HP→



4

事例2 「男女共同参画・福祉・防災を関連させた研修で、身近な視点から学べる相乗効果を期待！」 山形県高島町

【取組概要】

- 防災担当、福祉担当、男女共同参画担当、社会教育担当の4部署が連携して、男女共同参画の視点からの防災に関する住民向け研修を実施しました。

【取組のきっかけ】

- これまで「男女共同参画」「防災」「福祉」の取り組みを進める上で、それぞれの部署が単独で取組を実施しても思うように進まず、様々な分野と連携することが課題でした。また、各課で実施していたセミナーでは、自治会や地域の組織の代表に参加してもらっており、参加者が重複していることが多くありました。
- 令和3年度に、防災担当と福祉担当の女性職員が業務として、山形県が主催している市町村職員と住民向け防災研修を受講しました。その研修の中で、男女共同参画の視点からの防災の重要性について学びました。
- そこで、住民の関心が高い「防災」と「福祉」とを関連させることで、互いの事業の相乗効果も期待できるのではないかと考え、防災、福祉、男女共同参画、社会教育の4部署の担当が連携し、気軽に参加できるような住民向けの研修を実施することになりました。各課に戻り、それぞれの上司に研修の実施を宣言したところ、既存の研修を実施するための予算を活用するため、新たに予算を確保する必要がなく、上司の承認をスムーズに得ることができました。また、研修の内容については4部署の各担当を中心に進めていくこととなりました。
- 研修を通して複数の部署が連携する仕組みをつくることで、それぞれの取組を継続的に普及させることを目指しました。

1 4部署の連携による研修でそれぞれの取組を普及し、業務負担も軽減！

研修の準備		
<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> 4つの各部署の普段の業務や得意分野などを考慮し、役割分担を行った 庁内のオンラインコミュニケーションツールを活用し、進捗状況をこまめに書き込みながら、各担当で準備を進めた 	<p>こんないいことがあった！</p> 	<p>準備や調整、当日の運営などを複数の課で分担することで、研修準備の負担を軽減することができた！</p> 
研修の実施		
<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災担当、福祉担当、男女共同参画担当、社会教育担当の各部署で連携し、研修を実施した 	<p>こんないいことがあった！</p> 	<p>福祉や防災などの身近な分野と組み合わせることで、男女共同参画に関する住民の理解も得やすくなった！</p> 
<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの防災研修では、自治会や自主防災組織のリーダーたちを対象としており、参加対象者のほとんどが男性だったが、対象者範囲を一般住民にまで広げた 	<p>こんないいことがあった！</p> 	<p>住民が広く参加できるようになり、リーダーの男性に限らず、女性や子どもも参加できるようになった！</p> <p style="color: pink; border: 1px solid pink; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">多様な世代・性別・立場の人が参加！</p> 
<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもも一緒に参加できるようにし、出入り自由な参加方式とした 会場のロビーに防災グッズを展示したり、スタンプラリーを用意したりした 	<p>こんないいことがあった！</p> 	<p>子どもも一緒に参加しやすい空気をつくることで、子どもや子育て世代に対し防災への参画促進や女性の視点を入れることへの理解を促す機会になった！</p>

5

①4部署の連携による研修でそれぞれの取組を普及し、業務負担も軽減！

<研修の準備>

1. 研修の準備にあたっては、4部署が連携するきっかけとなった福祉の担当職員が中心となり、普段の業務や得意分野などを考慮して、例えば、周知広報は企画財政課、総務課、社会教育課が、講師依頼は総務課など、役割分担をしました。取組を始める前には一度対面で会議を行いました。それ以降は庁内のオンラインコミュニケーションツールを活用し、進捗状況をこまめに書き込みながら各担当で作業を分担し、準備を進めていきました。これにより、準備や調整、当日の運営などを複数の課で分担することができ、研修準備の負担を軽減することができました。

<研修の実施>

2. 研修は、防災、福祉、男女共同参画、社会教育の担当部署が連携しながら一緒に実施しました。福祉や防災など、住民にとって身近な視点を組み合わせることで、防災や福祉への理解が得やすくなっただけでなく、男女共同参画の必要性・重要性の理解にもつながりました。
3. これまで町が行っていた防災研修は、自治会や地域組織の代表者を対象に実施しており、参加者のほとんどが男性で民生委員の女性が数名いた程度でしたが、4部署が連携して研修を実施するにあたり、対象者を地域のリーダーだけでなく一般住民にまで広げたことで、女性や子どもも参加できるようになりました。
4. 研修では託児サービスを用意するのではなく、子どもも一緒に会場に参加できるようにし、出入り自由な形をとりました。防災グッズを展示したり、スタンプラリーを用意したりして、参加しやすい空気づくりを心がけました。これにより、参加者から「新しい形式の研修でよかった」といった感想が寄せられ、子どもや子育て世代に対し、防災への参画促進や女性の視点を入れることへの理解を促す機会になりました。